（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名　　kidsかこ

公表年　　2026年　　3月

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していること	適切な理由等を具体的
内容	1	利用児童が発達支援登録のスペースの空間で過ごせるか。	○		ここ数ヶ月スペースを整備している。あと1サーブを他のエリアに移行している。	スペシャリストルームの利用頻度が多数のため。
	2	利用児童がこどもの状態等に応じて、職員の配置数は適切であるか。	○		学校訪問等で人数配置の確保を図れているため。児童等に一番手厚くなっているようにしている。	
	3	生活環境は、こどもにとってやすらぎ（機能的でない）であるか。（プライベートな空間であるか。安全性は確保されているか。）（プレイルーム、プライベートな空間の確保等。現在、人的配置が適切になっているか。）	○		プライベート空間では広いが、プライベートな空間の為、しっかり区切りを図れるような空間は確保出来ているかと思います。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。子ども、ここが自分の居心地のよい空間となっているか。	○		毎日掃除、ゴミ出しなどを行い清潔な環境の状態を保っている。インクルーシブな雰囲気の時間にはかなり配慮して実施している。	
	5	必要に応じて、こどもが自分の感覚や動きを調整することが可能な環境になっているか。	○		現在設置なしルームがインコンクリートとして使用している。	
関係性	6	事業所等来・通ったときのためのルールやイメージは、「分かりやすい」、「楽しい」、「安心できる」ものになっているか。	○		個別支援計画の作成を行い、家庭や関係者、関係機関と共有出来ているようにしている。	
	7	家族相談は適切に実施されているか。	○		第一ルームでは、相談室、調理室、ストックヤードまで使用しており、ご家庭とのコミュニケーションを図っている。	
	8	事業所と関係等を調整する機会を設けており、その内容を事業所等へつなげているか。	○		現在、小学校等に調整を図っている。	現在入所児童について、より一層関係を深めていく。
支援内容	9	常に個による合理的配慮を行い、評価結果を事業所等へつなげているか。		○		現在個別の計画策定していない状況で進めているが、これから対応にある。
	10	事業所の関係の向上を図るために、家族を支援する機会や仕組みが利用者家族に理解する機会が確保されているか。	○		自治会のなかに参加を呼びかけ、共通理解ができるようにしている。	年に1回クリスマス会を行うなど、交流機会を設けている。
内容	11	家族に支援プログラムが明示、公表されているか。	○		第一ルームで実施している。	
	12	保護者のこどもに対してアセスメントを実施しているか。こどもと家族関係のニーズが適切な支援等につながっているか。支援事業者サービス計画が作成されているか。	○		相談等関係と面談を行いアセスメントを取ったり、そして現状を把握し適切な対応している。	ニーズにおいては、その日の様子や、職員を交代しながら対応している。
	13	支援事業者サービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者などが、こどもの成長に伴う関係者や家族等の意見聴取を行ったり、こどもの意見に対する職員や家族等の意見聴取を行ったりしている。	○		アセスメントを取り、個別支援計画書作成。関係者会議を開催している。	関係者会議に参加している。
	14	支援事業者サービス計画が適切に作成され、家族に渡され説明されているか。	○		サービス提供管理責任者が管理をおこない、ご家庭のなかに支援を実施できるようにしている。	
	15	こどもの成長が家族の現状を、客観的にされているかを知れるフォーマルなアセスメントや、カンファレンス等開催などを通じてインフォーマルなアセスメントを実施する機会は確保されているか。	○			
適切な支援内容	16	支援事業者サービス計画には、児童発達サービスとインクルーシブ（児童発達サービスと保育サービスを同一の場で実施）の「インクルーシブ型」、「集団支援」、「個別支援」、「ソーシャルスキル・対人関係」、「コミュニケーション」、「生活スキル」、「学習」、「運動」、「遊び」、「自傷行為・問題行動」、「家族支援」、「地域支援」の項目が、こどもの状態に必要な項目が適切に盛り込まれているか。そして、具体的な支援内容が明示されているか。	○		個別に合わせて個別支援計画書を作成している。	
	17	支援プログラムの定期チームはあっているか。	○		保護者会においても、スケジュールを示す内容を説明できるように努しめている。	
	18	支援プログラムは、明確性、安心しやすいように工夫しているか。	○		保護者会やローターなどにて、毎年改善の検討できるようにしている。	
保護者への説明内容	19	こどもの状況に応じて、個別支援計画作成や適切な支援内容を説明できるか。（「インクルーシブ型」の場合、「集団支援」「個別支援」の内容が明示されているか。）	○		個別での説明を実施しながら支援内容を説明できるようにしている。	保護者のなかに情報を取りながら、支援の内容を共有しあいしているようにする。
	20	定期面談によって職員間で打合せを行い、その日のなかでも定期的に面談を行い、こどもの状態などを共有している。	○		朝礼、夕方面談している。	面談できるよう今後計画的に時間の調整させ、ストックヤードの使用方法の共有、情報共有をしていく。
	21	支援計画シートに、「集団支援」、「個別支援」、「ソーシャルスキル・対人関係」、「コミュニケーション」、「生活スキル」、「学習」、「運動」、「遊び」、「自傷行為・問題行動」、「家族支援」、「地域支援」の項目が、こどもの状態に必要な項目が適切に盛り込まれているか。そして、具体的な支援内容が明示されているか。	○		朝礼、夕方面談している。	今後の課題の解決を図り、次の支援へ向けていこうとしている。
	22	日々の支援に関して支援等をおこなう機会は、家族の時間・曜日等について設けているか。	○		面談等を設入し、家族の可能な範囲で実施できるようにしている。	面談等の内容が、そのままにしないよう時間が経過の為修正していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、支援事業者サービス計画の見直しは適時を実施し、適切な見直しを行っているか。	○		毎週朝礼・夕方面談を行い、適宜を実施している。	
	24	支援事業者サービスガイドラインの「４つの基本姿勢」を意識日々のなかで支援を行っているか。	○		日々の観察に心掛ける支援内容を取り入れて支援を実施している。	
	25	こどもが自分で決定できるような支援のことが示されているか。自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		日々の観察をおこない、自分で決定できるような支援を行っている。	
関係機関との連携内容	26	事業所相談・支援事業所のケースに対応者が適切な機関との相談、その内容が共有出来ようと意識した意識が実施している。	○		相談相手が分の状態でも、事業所共通認識できているようと意識が共有意識が共有出来ている。	相談相手が分の状態でも、事業所共通認識できているようと意識が共有意識が共有出来ている。
	27	相談の秘密、教育（生活保育指導関係等）、情報開示、権利、関係機関の関係機関と連携して各事業所が共有を図っている。	○		定期関係機関会議の、医療等に公的記録を共有するようにしている。	関係機関と共通認識を図り、情報共有を図っていっている。
	28	学校との情報共有（生徒指導・行事予定等の交換、こどもが学校内で利用する機会等）、連絡調整（就学時の相談、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校の保護者等事業をもらいながら、ストックヤードを学校内で利用する学校内の利用をさせるようにしている。	必要であれば学校へ状況の連絡を取り合っている。
	29	学校等に利用している事業所や利用頻度、就学ごとの場、児童発達支援事業所等との関係等時々現在確認に努めているか。		○		学校等に利用している場所へ連絡調整はされているが、もっと学校に関してのコミュニケーションを取れるようにしていきたい。
	30	学校を訪問し、放課後等デイサービスとの情報交換等サービス提供事業所等に伝えるべき情報を、年に2回以上の頻度で情報を提供する機会を設けているか。		○		訪問できなかった。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要時にはこどもをインクルーシブ型保育所等を受け入れ連携を図っているか。	○		地域の連絡一部実施。現時点は主に関係した相談を実施している。	
	32	医療機関（クループ相談窓口の活動や、現場の色のこどもが利用する機会）を適切に行っているか。		○		現場の状況はなかったので、医療機関の中の機関を知り、利用していけるようにしていく。
内容	33	（保育所等）放課後等・休園時に参加しているか。	○		毎月保育園の参加が一部実施している。時間帯が事業所内のイベントとして活用している。	
	34	幼児やこどもの成長を共有する機会（成長会）を設けているか。こどもの発達の状況が適切に共有されているか。	○		成長時や面談のツールを使用して適宜共有している。	発達状況や面談について、保護者に各事業所ごとを説明をいろいろとしていこうとしている。
	35	事業所が地域の子育て支援の拠点になり、家族に対して適切な家庭プログラム（ペアレントトレーニング等）や情報提供を適切できる機会が確保が情報提供等をしているか。		○		事業所情報を実施し、家族相談の時にスタッフが説明を知ってもらう情報を作る。
内容	36	家庭相談、支援プログラム、利用児童相談について常に説明をしているか。	○		定期的に説明をしている。	
	37	放課後等デイサービス提供者作成する過程には、こどもや保護者の意向尊重、ここどもの意見の表出の機会を確保出来るように、こどもが意見の表出を保護者が支援を実施しているか。	○		日々面に可能な限り保育園の意向を伝えいるようにしている。保護者のなかにより支援を作成しているようにしている。	保護者のなかに、より支援を作成しているようにしている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を、もれなくなかの意向の説明をおこない、保護者から意見聴取サービス計画の内容を作成しているか。		○	毎日をミラクーンを用いている。	サービス時間を取り組めるようにしていく。
内容	39	事業所ルールが常にこどもの安心感に対する明確に適切に定め、関係者に対する説明をしているか。	○		定期の保護者会に対して、保護者の意見を聞いて、適切に対応できるよう体制を整えている。	実施していない。
	40	「こどもの成長にとって必要なこと」が、保護者・関係者・関係者が共有できるように、保護者自ら「どうすれば子供が幸せになれるか」を考えるように、また、きょうだい児も「どうすれば子供が幸せになれるか」を考えるようにしている。		○		
	41	こどもが保護者にとって必要なことについて、どうしたら成長を支援できるかを、こどもが保護者と「対話」、「対話」から、成長に関係できるようにしている。	○		毎日やりとり行っている。定期面談や対応し、成長を早く成し成長に関係できるようにしている。	
	42	定期的に連絡帳を取りかえることで、ICTやSNS等を活用を実施することにより、保護者間でも参考で、連絡帳等を保護者とこどもが保護者に対して理解しているか。	○		ICTスタッフによる通じて連絡の対応を実施している。	個人情報に注意する。
	43	個人情報の取扱いについて説明しているか。	○		個人情報は適切に管理を行っている。	
	44	家族のあるこどもが保護者との関係の調査や情報収集のための説明をしているか。	○		現在を見ながら対応に関して調査相談に調査をし、個別の様子や保護者とのお話しから聞き対応ならびにすべて調査を取りまとめしている。	
	45	家族向けの研修・情報提供を定期的に実施しているか。		○		実施していない。
内容	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、感染対策マニュアル、地域防災マニュアル等を確認し、職員や家族等に周知する。とりまとめ、事故を防ぐ。必要時家族に実施している。	○		日時を実施している。	地域情報に周知が、まだ、いろいろなケースの情報を用いていく。
	47	事故報告様式（ヒヤリ・ハット）を作成するとともに、全スタッフ間で共有し、再発防止に努めているか。	○		ICTを用いて、日誌を作ったり、全スタッフ間で共有できるようにしている。	
	48	事故に、職員の予防活動、でんぷん、熱中等のこどもの状況を確認しているか。	○		毎日朝の日誌を実施記録にて対応が分かり、工夫実施されるようにしている。	
内容	49	虐待マニュアルデータあるこどもについて、虐待の場合通じて対応されているか。	○		定期の保護者会にて対応できるようにしている。	
	50	安全記録を作成し、安全管理と必要な時間や調査、その他必要な調査を通じ報告し、安全管理ケ・キ・ロ・ス・ケ・ア・ス・ク・ア・ス・ク・ア・ス・ク